

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/01/14		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586019701	科目番号 / Subject code	05860197
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	現代の教養 (文化と社会)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	勝俣 隆		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	勝俣 隆		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	勝俣 隆, 福留 真紀, 飯塚 知敬		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟24		
対象学生 (クラス等) / Object Student	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	katumata@iizuka.fukutome@		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部 6 5 3 (勝俣), 6 1 0 (飯塚), 6 1 4 (福留)		
担当教員TEL/Tel	2299(勝俣)、2313(飯塚)、2312(福留)		
担当教員オフィスアワー / Office hours	各教員室のドアの掲示参照		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	人文科学を代表する文学・哲学・歴史学を専門とする3名が、それぞれの専門分野について、現代の教養として、必要な知識と能力、ものの見方、考え方等について、分かり易く解説し、受講者と共に考える授業を目指す。具体的には、日本の古典文学、西洋の哲学・倫理学、日本の歴史について、具体的な事例を基に解説し、受講者自身が考え、教員との質疑応答を通して、より深い理解に達することを目標とする。どの分野の講義についても、主体的に取り組んで、大学で学ぶものとしての要求される最低限の生きる教養を身に付けて欲しい。		
授業到達目標 / Goal	文学・哲学・歴史学の各分野において、担当者が用意した文字資料・画像資料等をほぼ正しく理解し、また、それらの資料から、自分自身が判断し、独自のもの見方を身に付けることを授業到達目標とする。例えば、文学の場合であれば、日本の文学の世界における意味が分かり、その代表的な作品の具体的な内容を理解し、文学と社会の関係について、その仕組みを理解できるといったことが最低限の到達目標であり、その上で、さらに、各自が、こうした見方も出来るのではないかとということまで考えることを最終的な目標としたい。高校までの暗記の学問ではなく、大学では、自分で考え、疑問に思ったことを調べたり考えたりして解決していくのだという主体的な取り組みが出来ることを目指す。		
授業方法 (学習指導法) / Method	文学・哲学・歴史学のそれぞれの担当者が用意したプリントや画像資料、パワーポイント等を利用して、具体的な事例に基づいて解説し、受講者は、その具体例と解説に基づいて考え、各自の判断と意見を持つことを目指す。受講者は、それぞれの担当者の指示に適切に従って受講されたい。出席は、それぞれの担当者の方法によるが、多人数なので、基本的に、小レポートのような形で各自の意見・質問等を毎時の終わりに書いてもらい、出席を確認する。併せて、その小レポートの内容については、次回に、担当者がコメントする形を取る。但し、その具体的方法は、各担当の方針で、変化があり得る。また、それぞれの担当者は5回ずつの講義を行い、5回目の講義の一部を使い、試験を実施する。		
授業内容 / Class outline / Con	1, 勝俣担当 ガイダンス及び、日本の文学の特色について 2, 勝俣担当 上代の具体的作品の読解と鑑賞、その謎を解く 3, 勝俣担当 中古の具体的作品の読解と鑑賞、その謎を解く 4, 勝俣担当 中世・近世の作品の読解と鑑賞、その謎を解く 5, 勝俣担当 近代の作品と社会。及び試験。 6, 飯塚担当 哲学のはじまりとギリシア思想 7, 飯塚担当 中世の宗教と思想 8, 飯塚担当 近代の科学と思想 9, 飯塚担当 現代の社会と思想 10, 飯塚担当 まとめと試験 11, 福留担当 「鎮国」とは何か 12, 福留担当 肖像画の世界(1) 13, 福留担当 肖像画の世界(2) 14, 福留担当 「武士」とは何か 15, 福留担当 江戸時代の裁判。及び、試験。		
キーワード / Key word	日本古典文学入門 謎解き 西洋哲学・倫理学入門 時代背景 日本史入門 資料読解 真相探求		

<p>教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book</p>	<p>勝保隆『星座で読み解く日本神話』（大修館書店）、『異郷訪問譚来訪譚の研究 上代日本文学編』（和泉書院）</p> <p>飯塚知敬『哲学の歴史』（中央公論新社）、『西洋哲学史』（ミネルヴァ書房）</p> <p>福留真紀『徳川將軍側近の研究』（校倉書房）、『名門譜代大名・酒井忠挙の奮闘』（角川学芸出版）『將軍と側近』（新潮新書）</p>
<p>成績評価の方法・基準等/Evaluation</p>	<p>授業への積極的参加 2割</p> <p>授業内容の主体的理解と応用 2割</p> <p>小レポートによる思考力の判定 2割</p> <p>試験による理解度の判定 4割</p>
<p>受講要件（履修条件）/Requirements</p>	<p>文学・哲学・歴史学に関心があり、主体的に努力する意志のあること。</p>
<p>学生へのメッセージ/Message for students</p>	<p>講義をしっかりと受け、さらに文学・哲学・歴史学に関する図書を沢山読んで、文系の学問の方法や在り方、その意義の一端を知って欲しい。その上で、今後、理系の専門に進むに当たって、より幅広い思考が出来るようになって欲しい。</p>

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/01/22		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586020101	科目番号 / Subject code	05860201
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	現代の教養 (自然科学)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	赤羽 良一		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	赤羽 良一		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	赤羽 良一		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟24		
対象学生 (クラス等) / Object Student	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	akaba@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部407号室 (赤羽良一研究室)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2334		
担当教員オフィスアワー/Office hours	水曜日16時~18時 (あるいは約束によります。)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>生命の維持に不可欠な酸素 (分子状酸素) ならびに化学反応に関与するフリーラジカルについて学ぶ。世界は分子で構成されおり、酸素は分子にさまざまな仕方で関与する。また、フリーラジカルは、広く物質変換や生体内および地球環境における化学反応に関与する重要な化学種である。この授業は、酸素とフリーラジカルを題材として、「自然」について考える切り口を提供するとともに、それが、今後の学習の展開に役立つような、そのような授業であることをめざしている。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>1) 分子状酸素の基本的性質について説明できること。2) 生体内や地球環境も含めた系での物質変換における酸素およびフリーラジカルに関与する化学反応について、例をあげて説明できること。3) 酸素やフリーラジカルの反応の理解に必要な基本的有機分子の構造と性質について説明できること。4) 「与えられた」課題について調査し、それを文章にまとめられること、および口頭で簡潔に表現できること。5) 1) ~ 4) を学習する、あるいは行う過程で、大学で自ら学ぶ力を培い、それをレポート作成等において表現できる力を培うこと。</p>		
授業方法 (学習指導法) /Method	<p>授業者の使用言語は英語である。主に講義形式で行うが、全体の中で3回分はグループ学習 (課題調査と討論、および発表) を行う。講義では主にパワーポイントを使用するが、黒板も使用する。授業外の学習時間 (15時間の授業 (1単位分) に対して30時間の自主的学習) を学生各自が確保し、主体的に学習できるように、フリーラジカルと酸素の関与する反応等について課題を出す。グループ学習時には、各自PCを持参する。</p>		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	酸素、フリーラジカル、活性酸素、光と生命、生命と酸素		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	授業時に参考図書および文献リストを配布する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	小テスト (遅くとも一週間前に連絡。12月以前を予定) (20%)、レポートの内容 (30%)、および期末試験の成績ならびに授業 (調査と討論) への参加度 (50%) で評価する。		
受講要件 (履修条件) /Requirements	授業開始までに、化学全般について、授業および授業以外の自主学習において、関係図書等で酸素や有機化合物について学んでおくことが望ましい。		
学生へのメッセージ/Message for students	自然界の物質、生命、環境、すべてに関わる酸素とフリーラジカルの化学を、これからの専門の学習の展開につなげていってください。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	自然界における酸素とフリーラジカル: なぜ酸素とフリーラジカルなのか。		
第2回	酸素と反応する有機化合物の基礎知識 (1)		
第3回	酸素と反応する有機化合物の基礎知識 (2)		
第4回	酸素の化学 (1): その特性、三重項酸素と一重項酸素		
第5回	酸素の化学 (2): 有用性と毒性を中心に		
第6回	フリーラジカルとは何か		
第7回	フリーラジカルと有機化合物の反応		
第8回	生体内のフリーラジカルと活性酸素 (1)		

第9回	生体内のフリーラジカルと活性酸素（2）
第10回	物質と酸素の相互作用（1）：物質の生産と劣化、光の関与
第11回	物質と酸素の相互作用（2）：光の関与、生物と酸素
第12回	11回目までの授業内容について課題を設定し、グループ学習を行う。（1）
第13回	11回目までの授業内容について課題を設定し、グループ学習を行う。（2）
第14回	グループ学習をしたことを資料を用いて口頭で発表するとともに、他グループの発表内容について意見を述べ合う。
第15回	まとめ
第16回	期末試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/01/14		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586020501	科目番号 / Subject code	05860205
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	現代の教養 (芸術の世界)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	牧野 一穂		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	牧野 一穂		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	牧野 一穂		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟24		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kmakino@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	美術・技術棟216-2		
担当教員オフィスアワー/Office hours	後期 木曜日 12:00-12:30 (事前にメールでの予約が必要)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	美術における『観ること』と、『表現』について学ぶ。		
授業到達目標/Goal	なぜ社会・個人に、芸術が必要なのか説明、表現ができる。		
授業方法(学習指導法)/Method	芸術表現の諸相を軸に、授業を行う。また、実技を通して深く内容を理解する。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	関係		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	5分の4以上の出席者を評価の対象とする。提出(作品やレポートなど)60%、受講の姿勢40%		
受講要件(履修条件)/Requirements	実技を実施するので定員は40名以内		
学生へのメッセージ/Message for students	講義中に使用する語彙から、具体的行為を想像するための抽象能力が必要です。実技を行うので、準備が確実にいけること。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション		
第2回	諸芸術と絵画芸術		
第3回	諸芸術と絵画芸術		
第4回	諸芸術と絵画芸術		
第5回	諸芸術と絵画芸術		
第6回	諸芸術と絵画芸術		
第7回	実制作 モノトーンのパルルールを中心に		
第8回	実制作 モノトーンのパルルールを中心に		
第9回	実制作 モノトーンのパルルールを中心に		
第10回	実制作 モノトーンのパルルールを中心に		
第11回	実制作 彩度とマチエールを中心に		
第12回	実制作 彩度とマチエールを中心に		
第13回	実制作 彩度とマチエールを中心に		
第14回	実制作 彩度とマチエールを中心に		
第15回	まとめ		
第16回			